様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４６０２
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０５１６５

研究課題名（和文）「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of regional history of ancient Palestine by the collaboration of regional archaeology and biblical archaeology

研究代表者
桑原　久男（KUWABARA, HISAO）

天理大学・文学部・教授

研究者番号：００２３４６３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,900,000円

研究成果の概要（和文）：　古代の地中海東岸南部地域における後期青銅器時代（紀元前14～11世紀頃）～後期鉄器時代（紀元前7～6世紀頃）にかけての地域史を、「地域考古学」と「聖書考古学」の協業を通して再構築することを目的とする。そのために、イスラエル、下ガリラヤ地域のテル・レヘシュ遺跡について、アクロポリスに所在する後期鉄器時代の大形複合建造物の構造を解明し、年代を特定するための発掘調査を行った。その結果、複合建造物全体は、約60m×35mの長方形に復元されることなど明らかになった。また、「下の町」については、地中レーダ探査を行い、大型の建築遺構が存在することを推定した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we tried to reconstruct the regional history of the eastern coastal area of Mediterranean Sea, from Late Bronze Age(14-11 BCE) to Late Iron Period(7-6BCE), through corporation of 'Regional Archaeology' and 'Biblical Archaeology'. For this purpose, we conducted archaeological excavations on Tel Rekhesh, which is located on Lower Galilee, Israel. As a results, it was revealed that the large building complex on the upper mound would be reconstructed as an approximately 60 × 80 m rectangular. Ground Penetrating survey on the Lower shelf suggested the existence of some kinds of monumental structure there.

研究分野：考古学

キーワード：考古学　イスラエル　青銅器時代　鉄器時代　都市遺跡　テル・レヘシュ　建築

１．研究開始当初の背景

(1)地中海東岸南部地域の考古学は、「聖書考古学」、「地域考古学」という二つの側面を合わせ持っている。

「聖書考古学」は、かつては、聖書の物語、とくに族長と征服の時代についての史実を証明することを目的としていたが、現在は、聖書の物語の史実性について多くの疑義が提出されている。すなわち、旧約聖書のテキストを歴史としてではなくイデオロギーの産物として批判的に読むことを通しての「新しいスタイルの聖書考古学」が志向され、そこでは、考古学は、聖書の記述の史実性を検討する史料批判のために有効な比較材料の一つとみなされる。

一方、「地域考古学」という面では、聖書の歴史的記述をできるだけ後景化させ、グローバルに展開する世界考古学のケーススタディとして、人類史にも関わる独自の研究テーマ、すなわち、農耕の発生と社会の複雑化、都市の形成と展開など、世界の他地域の場合と同様な課題について、考古学的な事象に基づいた事例研究が進められる。

(2)本研究が主対象とするテル・レヘシュは、前期青銅器時代から鉄器時代、アケメネス朝ペルシャ、ローマ時代へと長期的に継続したテル型遺跡である。その 3,000 年にわたる居住史の様相の解明をめざした同遺跡の第Ⅰ期調査（2006～2010 年）では、旧約聖書に記述が見えるイッサカル部族の中心都市、アナハラト（ヨシュア記 19:19）との関連を意識しつつも、「地域考古学」に力点を置いた調査が進められた。これに対して、本研究によるテル・レヘシュの第Ⅱ期発掘調査は、「下の町」に広がる後期青銅器～初期鉄器時代の建築遺構の時期と様相、アクロポリスに位置する後期鉄器時代の大型建築（要塞）の様相などの解明が課題であり、ちょうど、旧約聖書中のヨシュア記、士師記、サムエル記、列王記に記された時代と重なってくる。このため、かつて研究代表者が従事したガリラヤ湖畔のエン・ゲヴ遺跡発掘調査の場合と同じように、「地域考古学」的な研究のみならず、聖書の歴史的記述と批判的に向き合う「聖書考古学」の方向性が不可欠となる。

２．研究の目的

本研究では、古代の地中海東岸南部地域について、後期青銅器時代（紀元前 14～11 世紀頃）～後期鉄器時代（紀元前 7～6 世紀頃）にかけての地域史を、「地域考古学」と「聖書考古学」の相互補完的な協業を通して再構築することを目的とした。すなわち、「地域考古学」の観点からは、イスラエル北部所在のテル・レヘシュの発掘調査を行って、各時期の建築遺構や都市構造、物質文化を諸遺跡と比較研究する。「聖書考古学」の観点からは、考古学データに照らして旧約聖書の記述を批判的に検討する。さらに、両者を総合することで、カナンの都市国家群の盛衰→初期イスラエルの出現→イスラエル王国の成立と分離→アッシリア、バビロニア、アケメネス朝ペルシャによる支配といった激変の中で、地域社会がどのように変容を遂げたのかを実証的に明らかにし、定型化した歴史像をできるだけ客観的に再構成することを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、地中海東岸南部地域（パレスチナ地域）における古代史の再構築をはかるため、考古学に軸足を置いた「地域考古学」、聖書研究に軸足を置いた「聖書考古学」の研究者が協力しながら研究を進めた。とくに、これまでの発掘調査で遺跡の形成過程と居住の歴史についての基礎的な所見を得ているテル・レヘシュについて、2015 年から 2017 年の３カ年にわたって、「上の町」（アクロポリス）に築かれた後期鉄器時代の大型複合建築の年代と性格の究明を主目的とした発掘調査を実施し、遺構・遺物に関する考古学的データを取得した。発掘調査は、各年度、イスラエル考古局の許可を得て、夏期に現地（イスラエル）に滞在し、現地の研究協力者と共同しながら実施した。発掘調査で得られた考古学的データは、帰国後に現地協力者との連携を取りながら整理を行い、「聖書考古学」的視点を加味しつつ、考察を加えた。

４．研究成果

(1)　イスラエル、下ガリラヤ地方に所在するテル・レヘシュ遺跡に関する既往の調査成果、天理参考館所蔵のテル・ゼロール出土資料と調査記録の検討を行い、その成果の一端を、天理参考館のスポット展示「2015 年 7 月 8 日～2017 年 2 月 6 日」として公開を行った。

(2)テル・レヘシュにおける発掘調査で得られた成果の概要は次のとおりである。

①アクロポリスの後期鉄器時代大型建築

大型複合建築の構造と性格の解明をめざした調査区の設定を行ったが、要塞建築の南側を区切る周壁について、基底石の外側にこぶし大の石を埋め込み、さらにその外側には固くしまった土を土手状に積みあげる構築方法が確認できたことが特筆される。また、鉄器時代の大形複合建築の壁体に方向を合わせて、プラスターを貼った階段状遺構が存在するのが確認された。ただし、階段状遺構の上面から出土する土器はローマ期のものであり、遺構の時期を特定するために、遺構断面の精査を行ったところ、下層では鉄器時代の土器のみが出土することを確認した。

2015 年に行った地中レーダ探査の結果、複合建造物はテル頂部の南側だけに広がる蓋然性が高まり、これを裏付けるために発掘を行った。その結果、建造物の東側外壁の一部と見られる石壁（幅１m超）と東側に張り出す別の石壁が確認され、この部分が北東側の

コーナーであると推定された。複合建造物全体は、約 60m×35mの長方形に復元されることになる。また、複合建造物の東側外壁に隣接して、三つの調査区を設けて調査を行ったところ、斜面の防御壁に接続する後期青銅器時代のやや大きな建築遺構と生活面を確認することができた。

また、大型複合建造物の西南隅の区域にも新たに調査区を設定した。事前の地中レーダ探査で大型複合建造物の外周壁と見られる明確な反応が見られたため、調査区を設定し、調査を進めたところ、想定どおり、複合建造物の外周の立派な石壁が二本、南北方向に現れた。注目されるのは、岩盤上に石壁を構築する際に、先行の鉄器時代Ⅱ期のインストレーションを破壊していることであった。外周壁の間の空間（3.3m幅）からは、後期鉄器時代の土器片、イラン・スキタイ様式の三翼式銅鏃、動物骨などが出土した。想定外の発見として、調査区の北半部で、鉄器時代の石壁を壊すように、地表のすぐ近くに、初期シナゴーグとみられるローマ時代の特徴的な建築遺構が確認されたことが特筆される。

③アクロポリスの土地利用

2017 年８月、アクロポリス地区について、補足的な発掘調査を行い、後期鉄器時代に大形複合建造物が構築される以前の土地利用の状況を探索した。その結果、同地区は玄武岩の岩盤が基盤となっていて、その岩盤を利用して、おそらくは鉄器時代に、ワイン生産に関わるとみられる各種の施設が設置されていたことが明らかになり、また先行する小規模な建築遺構に伴う石壁の一部を確認することができた。

④「下の町」のサーベイ

2015 年 8 月、青銅器時代～初期鉄器時代の街並みや城門の存在が想定される「下の町」では、地中レーダ探査を行い、一部に強い反射のまとまりが幾何学的に配列しているようにみられる範囲を確認することができた。周壁や構造物などが存在する可能性も考えられ、将来の調査に向けた手掛かりを得られたことは大きな成果の一つであった。

(3)テル・アヴィブ大学でのワークショップ

2017 年、テル・アヴィブ大学考古学研究所長のオデド・リプシッツ教授の来日に伴い、同地域の鉄器時代からローマ時代にかけての考古学をテーマにした公開講演会を開催し、研究成果の公開に努めた。また、2017 年 12 月～2018 年１月にかけて、数名がイスラエルを訪問し、発掘調査の事後作業とデータの整理を行うとともに、調査報告書作成のための基礎作業を進めた。また、合わせて、テル・アヴィブ大学考古学研究所においてワークショップを開催し、テル・レヘシュ遺跡の調査成果と出土遺物について、リプシッツ教授をはじめ、同研究所の研究員らとともに検討をおこなった。また、ラマット・ラヘル遺跡など、関連遺跡を訪問し、建築遺構の比較検討をおこなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①桑原久男、山野貴彦、津本英利、ガリラヤ最初期のシナゴーグを掘る－イスラエル国テル・レヘシュ第 11 次発掘調査（2017 年）、西アジア発掘調査報告会報告集、25 巻、2018 年、pp.49-52

② Shuichi Hasegawa,Hisao Kuwabara, Yitzhak Paz、Tel Rekhesh 2015, Hadashot arkheologiyot,Vol.130,2018,web 出版

③Shuichi Hasegawa, David and Goliath: Towards a Dialogue between Archaeology and Biblical Studies, David and Goliath: Towards a Dialogue between Archaeology and Biblical Studies,Vol.2,2017,pp.607-622

④津本英利、小野塚拓造、聖書考古学の焦点、季刊考古学、141 号、2017、pp.61-65

⑤桑原久男、橋本英将、聖書考古学の最前線－イスラエル、エン・ゲヴ遺跡とレヘシュ遺跡、季刊考古学、141 号、2017、pp.66-69

⑥長谷川修一、宮崎修二、聖書考古学の現在、季刊考古学、141 号、2017、pp.70-73

⑦桑原久男、橋本英将、小野塚拓造、宮崎修二、下ガリラヤ地方における初期シナゴーグの新例、西アジア発掘調査報告会報告集、24 巻、2017、pp.34-38

⑧橋本英将、桑原久男、津本英利、小野塚拓造、西アジアに出現した大帝国の支配をさぐる－テル・レヘシュ第９次発掘調査（2015 年）、西アジア発掘調査報告会報告集、23 巻、2016、pp.15-19

⑨桑原久男、イスラエルの考古学、日本の考古学、古代文化、68 巻 3 号、2016、pp.34-44

⑩橋本英将、イスラエル考古学における金属生産史研究、古代文化、68 巻 3 号、2016、pp.56-67

⑪巽善信、ティリンス遺跡原画からみたシュリーマン像、天理参考館報、28 巻、2015、89-96

⑫ Shuichi Hasegawa, Reconstructing History of the Northern Kingdom of Israel, JSPS Quarterly,Vol.53,2015,p5

⑬ Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara. Itzhak Paz, Tel Rekhesh 2014: Preliminary Report,Hadashot Arkheologiyot,Vol.129, 2016、web 出版

〔学会発表〕（計 2 件）

① Shuichi Hasegawa Hidemasa Hashimoto, Hidetoshi Tsumoto and Takuzo Onozuka, The excavations at Tel Rekhesh, Israel: The results of 2013-2017 seasons, The 11th International Congress on the Archaeology

of the Ancient Near East（国際学会）,2018
②長谷川修一、聖書考古学の魅力：旧約聖書の遺跡を掘る、第２回西アジア考古学会トップランナーズセミナー（招待講演）、2017

〔図書〕（計１件）
①長谷川修一ほか、リトン、聖書の世界を発掘する－聖書考古学の現在、2015、172
〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
桑原　久男（KUWABARA, Hisao）
天理大学・文学部・教授
研究者番号：　００２３４６３３

(2)研究分担者
長谷川　修一（HASEGAWA, shuichi）
立教大学・文学部・准教授
研究者番号：７０６２４６０９

日野　宏（HINO, Hiroshi）
天理大学・附属天理参考館・学芸員
研究者番号：２０４２１２９０

巽　善信（TATSUMI, Yoshinobu）
天理大学・附属天理参考館・学芸員
研究者番号：６０４４１４３２

小田木　治太郎（ODAGI Harutaro）
天理大学・文学部・教授
研究者番号：９０４４１４３５

橋本　英将（HASHIMOTO　Hidemasa）
天理大学・文学部・准教授
研究者番号：８０３７２１６８8

小野塚　拓造（ONOZUKA Takuzo）
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員
研究者番号：９０７３６１６７

(3)連携研究者

(4)研究協力者